



北陸管内の経済情報

(全国財務局長会議資料)

- I. 最近の北陸財務局管内の経済情勢
- II. 成長型経済の実現に向けた地域企業の取組

令和6年11月7日

北陸財務局

【お問合せ先】
財務省 北陸財務局 経済調査課
TEL (076) 292-7858

1. 最近の北陸財務局管内の経済情勢

	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較	総括判断の要点
総括判断	令和6年能登半島地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、 <u>持ち直しつつある</u>	令和6年能登半島地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、 <u>緩やかに持ち直している</u>		個人消費は、地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、緩やかに回復しつつある。生産活動は、持ち直しつつある。雇用情勢は、地震の影響により一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している。

〔先行き〕復旧・復興の動きに加え、各種政策や北陸新幹線敦賀延伸の効果もあって、持ち直していくことが期待されるが、地震等の影響については十分注意する必要がある。

	前回（6年7月判断）	今回（6年10月判断）	前回比較
個人消費	地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、持ち直している	地震の影響は残るものの、復旧・復興需要や北陸新幹線の敦賀延伸効果等もみられることなどから、緩やかに回復しつつある	
生産活動	地震後の復旧が進んでいることなどから、持ち直しつつある	持ち直しつつある	
雇用情勢	地震の影響により一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している	地震の影響により一部に弱い動きがみられるものの、緩やかに持ち直している	

※6年10月判断は、前回6年7月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

Ⅱ. 成長型経済の実現に向けた地域企業の取組

1. 調査の概要

成長型経済の実現に向けた地域企業の取組について把握するため、北陸財務局管内の企業等に調査（ヒアリング）を実施。

- (1) 調査期間：2024年9月上旬～10月上旬
- (2) 調査対象：北陸財務局管内の経済情勢報告を取りまとめる際に従来から継続的にヒアリングを実施している企業等（計102社）
- (3) 調査方法：北陸財務局においてヒアリング調査を行い、回答を分類。

2. 注意事項

- (1) 結果数値（％）は小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 北陸財務局がヒアリングを行った企業についての調査結果であるため、管内企業全体の取組を網羅した調査結果ではない。
- (3) 本調査では、「不明・無回答」を除いて各項目の割合等を集計している。

II. 成長型経済の実現に向けた地域企業の取組 ～地域企業が直面する課題～

1. 足下の収益状況と要因

足下の収益状況をみると、製造業、非製造業ともに「改善」とする企業が最も多く、5割弱を占めている。

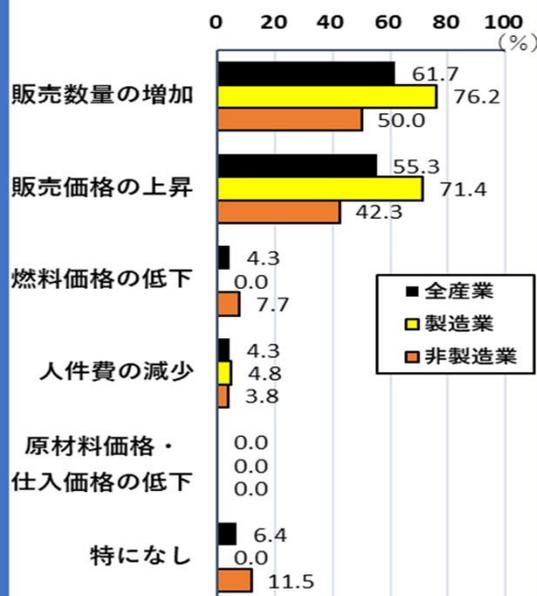
改善の要因では、製造業、非製造業ともに「販売数量の増加」が最も多くなっている。

悪化の要因では、製造業は「原材料価格・仕入価格の上昇」及び「販売数量の減少」、非製造業は「人件費の増加」が最も多くなっている。

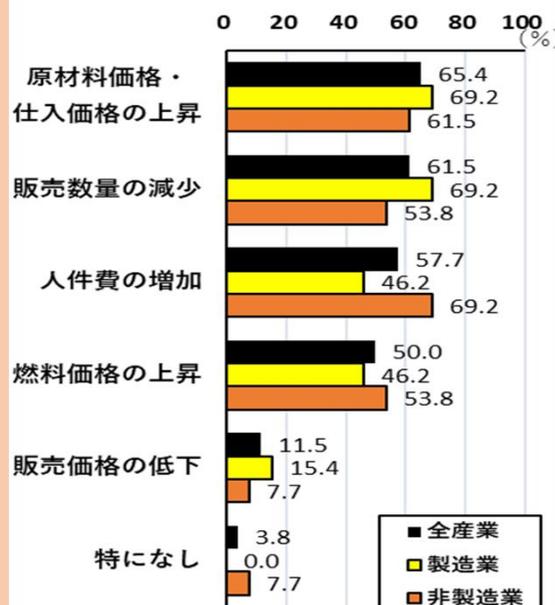


【備考】比較対象は、足下（2024年）と前年（2023年）

改善の要因



悪化の要因



【改善】

- 半導体製造装置の需要の高まりを受けて、販売数量を伸ばしている【製造/生産機】
- 新工場が稼働し、生産・供給能力が拡充した【製造/金属製品】
- 地震からの復旧需要で売上増【非製造/小売】
- 取引の多くが海外であるため、円安が収益に寄与【製造/生産機】
- 原材料価格の高騰を踏まえ、価格転嫁を実施した【製造/その他】
- インバウンド効果のほか、値上げによって原価率が改善している【非製造/飲食サ】
- 宿泊料の値上げのほか、能登半島地震の被災地応援者等の宿泊等もあり稼働率が向上している【非製造/宿泊】
- 販売価格の上昇に加え、作業効率化、設備更新によるランニングコスト削減に成功【非製造/小売】

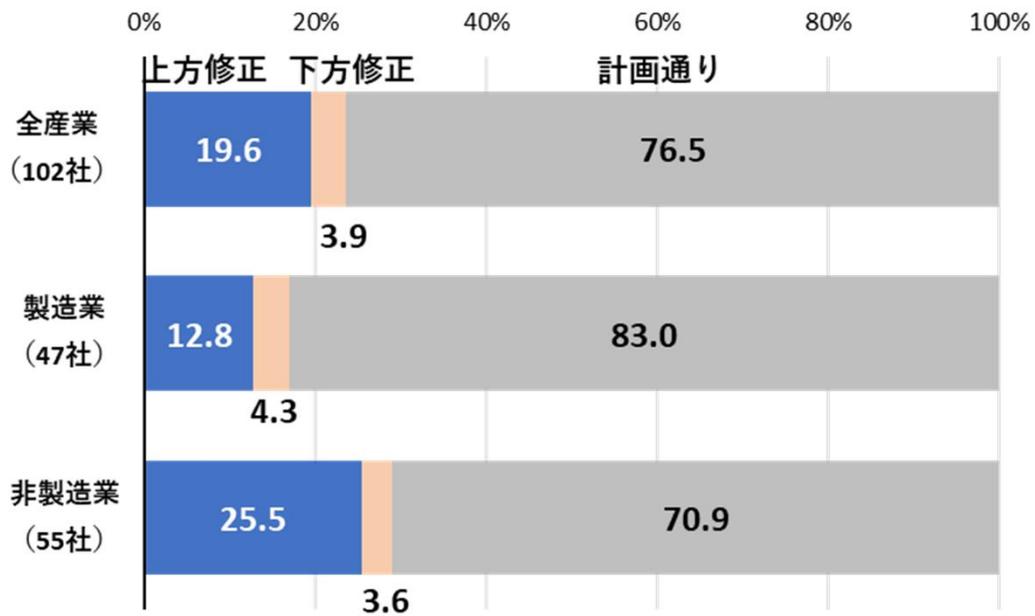
【悪化】

- 輸入部品の高騰、販売数量の減少で利益が確保できていない【製造/生産機】
- 原料のほとんどを海外から輸入しているため、円安が利益減に直結【製造/化学】
- 震災の影響により、農場が被災し出荷量が低下【非製造/農業】
- 住宅市況が停滞しており、収益悪化【製造/その他】
- 震災による消費マインドの低下、新幹線効果による他地域への観光需要流出【非製造/小売】
- エネルギーコストを販売価格へ転嫁しきれていない【製造/情報機】
- 運送費や人件費の価格転嫁ができていない【製造/金属製品】
- コロナが明け出張等も増えるなど、人件費・営業コストが高んでいる【非製造/卸売】

II. 成長型経済の実現に向けた地域企業の取組 ～地域企業が直面する課題～

2. 国内の設備投資計画の見直し

今年度の国内の設備投資計画については、**製造業、非製造業ともに「見直す予定はない（計画通り）」とする企業が大半**を占めている。



【備考】

上方修正 = 設備投資を拡大する方向で見直し（決定を含む）
 下方修正 = 設備投資を縮小する方向で見直し（決定を含む）
 計画通り = 設備投資を見直す予定はない（未定、不明を含む）

【上方修正】

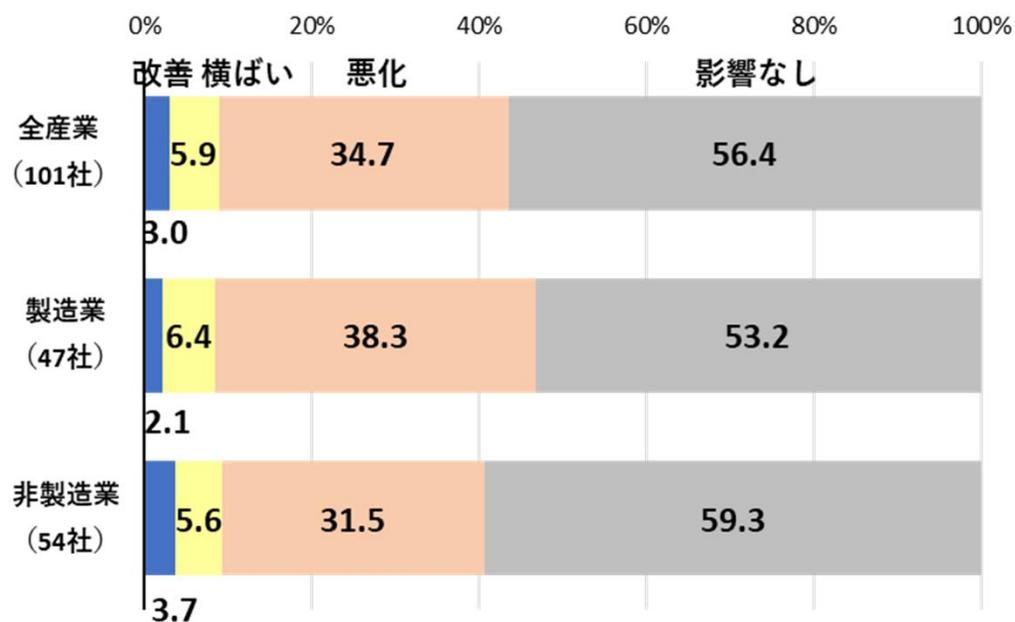
- 電気料金の高騰を受け、食料品売場等に扉をつけるなど店舗の**省エネ改修**を進めている【非製造/小売】
- 生産性向上のための**IT化投資、LED化などの省エネ投資**を進めている【非製造/宿泊】

【下方修正】

- 需要が上向かず、**増産投資に関連する案件を先送り**にする可能性【製造/金属製品】
- **建築資材の高騰により、内装等の投資を縮小**する予定【非製造/商業施設】

3. 金利上昇が利息収支に与える影響

金利上昇が利息収支（受取利息－支払利息）に与える影響については、**製造業、非製造業ともに「影響なし」とする企業が過半**を占めている。



【備考】

影響なし = 受取利息・支払利息は僅少であるため、影響はない

【改善】

- **有利子負債より、キャッシュの方が大きい**ためメリットが勝る【非製造/宿泊】

【悪化】

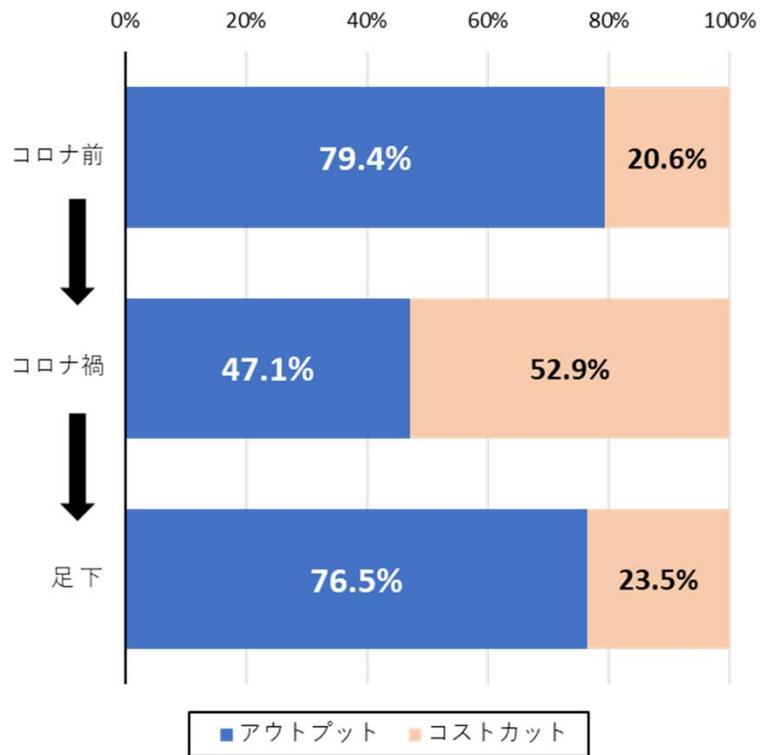
- **借入金にかかる悪影響**が大きいと見込まれる【製造/生産機】
- 今後、**利息負担の増加**が見込まれるため、借入金の繰上げ返済や投資計画の見直しも考えられる【製造/非鉄金属】

II. 成長型経済の実現に向けた地域企業の取組 ～収益力強化のための取組～

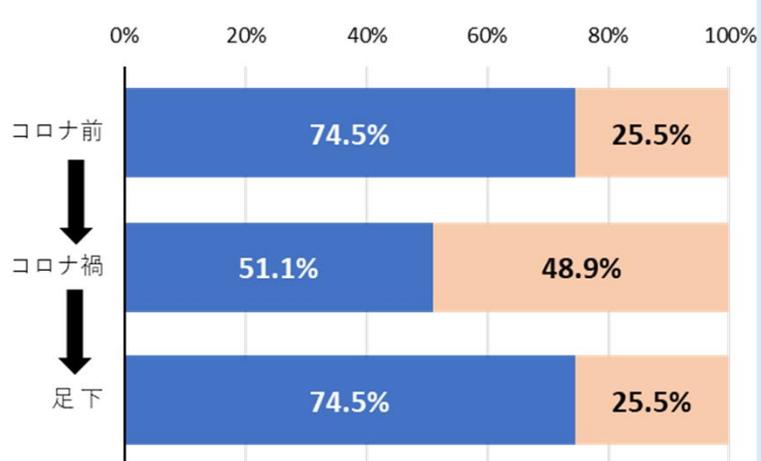
4. 『アウトプット（売上増加）』と『コストカット（経費削減）』どちらを重視しているか

収益状況改善のために重視する取組について、製造業、非製造業ともに、コロナ禍では「コストカット」にシフトしたが、足下では、再び「アウトプット」を重視する企業が8割弱を占めている。

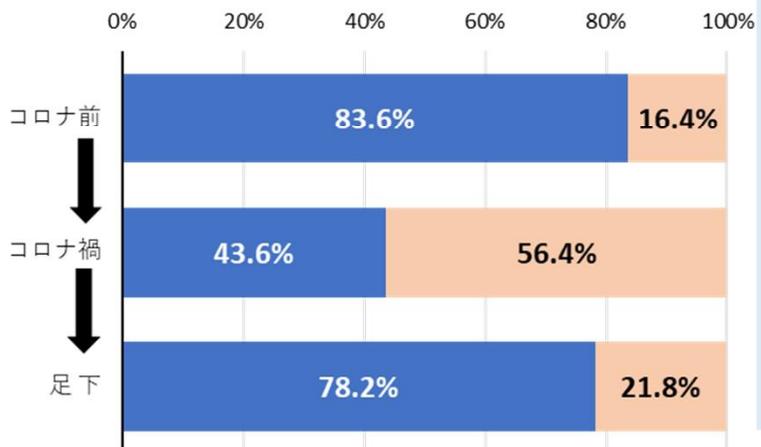
■ 全産業（102社）



■ 製造業（47社）



■ 非製造業（55社）



【備考1】
 コロナ前 = 2018年頃
 コロナ禍 = 2020年～2023年5月まで
 足下 = 2024年

【備考2】
 アウトプット = 売上げ等のアウトプット増加のための取組をより重視
 コストカット = コスト削減による利益創出をより重視

【アウトプット】

- 主要市場が低迷するなか、成長分野に積極的に投資することで新規市場を開拓
【製造/金属製品】
- 既存製品への依存から、環境型製品へのシフトにより売上強化が見込める
【製造/自動車】
- コスト削減は限界なため、付加価値の高い商品を増やしつつ、生産量も拡大することを優先
【非製造/農業】
- 仕入価格高騰を受け値上げを実施したほか、引き続き新商品の開発等に取り組んでいる
【非製造/飲食サ】

【コストカット】

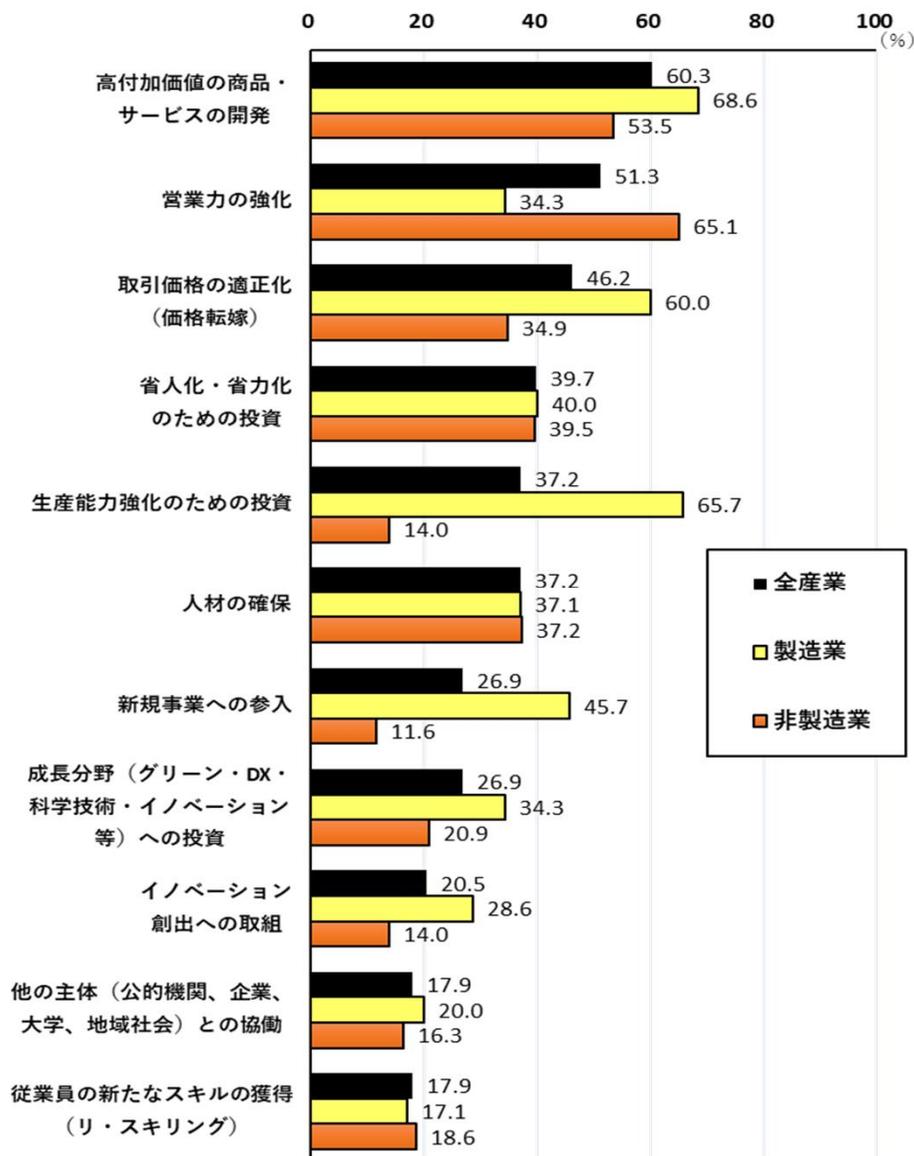
- 市況が悪く、アウトプットに注力しても効果が見込めない
【製造/情報機】
- 人口減少が進み、売上増加はあまり見込めない
【非製造/建設】
- 市況や競合を分析しても売上げの大幅増は見込めず、コロナ禍の損失等もあり売上げばかりを追求められない
【製造/生産機】
- 受注を取れていない現状では、利益確保のためにはコスト削減に軸足を置かざるを得ない
【製造/生産機】
- 値上げラッシュや為替動向等、不透明な要素が多く、売上増加に注力することは困難
【非製造/小売】
- 売上げの増加以上に、コストの増加が大きく負担になっている
【非製造/小売】

II. 成長型経済の実現に向けた地域企業の取組 ～収益力強化のための取組～

5. アウトプット増加のための取組

アウトプット増加のための取組（「取組もうとしている」を含む）について、**全産業では「高付加価値の商品・サービスの開発」と回答した企業が最も多く、次いで「営業力の強化」、「取引価格の適正化（価格転嫁）」の順となっている。**

製造業では「高付加価値の商品・サービスの開発」、非製造業では「営業力の強化」と回答した企業が最も多かった。



- 露天風呂付き客室の増設や食事処のリノベーションによって高付加価値化を図っている【非製造/宿泊】
- 新商品やリニューアル商品の投入による業務用市場の奪回と高付加価値商品の展開を行っている【非製造/食料品】
- 顧客との関係性の強化と広域集客による新たな客層の開拓の両軸で営業戦略の強化に取り組んでいる【非製造/小売】
- 仕入価格やエネルギー価格上昇分の価格転嫁を進行中【非製造/小売】
- 生産量が伸び悩むなか、粘り強く価格転嫁を継続【製造/繊維】
- 手作業による工程が必須な業態であるが、新卒採用が一層厳しくなる中、できる限り自動化を進めている【製造/眼鏡枠】
- EV関連製品の生産拡大のため、工場を新設【製造/金属製品】
- 夜間人員を確保するため、大学と連携し、学生バイト向け送迎バスを配備している【非製造/商業施設】
- バックヤードの効率化や社内の情報共有のIT化など、従業員が働きやすい環境の整備に取り組んでいる【非製造/宿泊】
- 新たに冷凍商品の物販事業に参入し、販路拡大を狙っている【非製造/飲食サ】
- 国際的な環境意識の高まりを受け、天然由来原料や再生資源を活用した製品を開発している【製造/化学】
- 新分野として、航空機部品で何かできないか検討中【製造/金属製品】
- 成長分野（EV車、DX、IoT）に対して、高付加価値製品を投入できるよう技術開発に取り組んでいる【製造/情報機】
- 開発製造拠点を新設のうえ関係会社と連携し、新たな開発・サービス提供を図る【製造/化学】
- 業務効率化のため、2年前から大学と連携し、生成AIを使ったシステム開発を進めている【製造/金属製品】
- 従業員の個性を生かす人材開発、能力開発に注力【非製造/他サビ】

II. 成長型経済の実現に向けた地域企業の取組 ～事例紹介～

「衣料」から「医療」へ ～繊維業の新たなる挑戦～

福井経編興業 (株)

ふくい たてあみ こうぎょう
 (本 社) 福井県福井市
 (資本金) 80百万円
 (従業員数) 90名
 (業 種) 繊維工業/経編生地製造販売

昭和19年創業。経編業者としてアウター、インナー、スポーツ衣料、車両用資材などの製造を手掛ける。
 メディカル分野への参入は小説「**下町口ケット2**」のモデル企業として描かれた。



【画像】福井経編興業(株)HP

I. 北陸・繊維工業の課題

- 国内人口の減少
- 大手からの下請け依存
- 海外メーカーの成長、価格競争

【高度成長期（ガチャマン時代）】

生地に穴が多少開いていても「作れば売れる」

【2000年代】

中国など安価なアジアの織物・編物メーカーの台頭、少子高齢化等による国内需要の減少



II. 試行錯誤の時代

- 日本産ブランドとして高くても質で勝負するため、「繊維の高品質化」に取り組む
 ⇒ すぐに中国などが同様の製品を作り出し、市場のシェアを奪い返される
- 日本産をアピールするため、化学繊維と比べ糸が切れやすく編むのが難しい天然繊維（シルク）に着目し、量産化に挑戦
 ⇒ **シルクを、機械で編み込む独自技術の開発に成功**
- この技術を持って、海外販路を開拓すべく、パリの展示会に継続的に出展
 天然繊維の編込み技術が、欧州ハイブランドに認められ、ジャケット生地に採用
 ⇒ 高単価製品誕生も、ボリュームに劣る（もっと天然繊維製品の拡大を・・・）

III. 医療分野への進出（人工血管）

2008 東京農工大・朝倉教授

- **人工血管を小さく！ポリエステルでは血栓が詰まりやすく、サイズは6ミリが限界。シルクで作れないか？**

⇒ 即決で「可能」と回答

2012 **天然繊維100%・口径1ミリの人工血管の開発に成功！！**

実験過程で、マウスの細胞が生地に入り込む現象を体感し、「繊維の可能性」と、当社の技術が「世界の医療に貢献できる」ことを確信。

IV. 医療分野への進出（心臓パッチ）

2012 大阪医薬大・根本教授

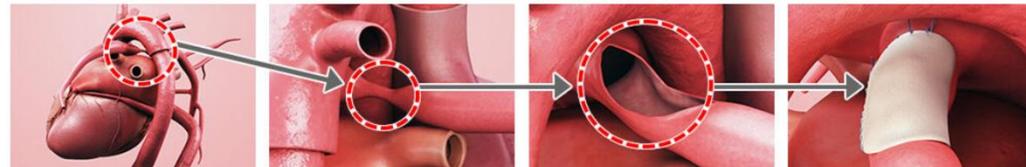
- 医療機器は海外製ばかり。
- 既存の小児用心臓パッチは合成樹脂等によるもので、伸張せず、素材も劣化し、再手術が必要。子供や家族にとって身体的・精神的負担大。

子どもの成長とともに伸張する心臓パッチを作れないか？

⇒ 「国産技術で、子どもの命を守りたい」と意気投合

<心臓パッチ>

先天性心疾患（生まれつき心臓や血管の構造が正常とは異なることにより血液の循環に支障）の手術で使用



【画像】帝人(株)HP:手術の一例（イメージ図）

肺動脈狭窄

血管を切開

パッチで補綴

V. 心臓パッチの開発・販売（2012～2024）

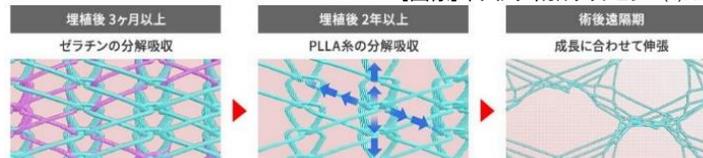
- 「もっと強く」「もっと軽く」…………… 人工血管開発で得たノウハウ・知見、技術力の活用
- プロジェクトメンバーの選定…………… 課題を見つけて取り組める若手中心
- 大学、他企業（帝人）との連携 …… 技術、製品化・事業化サポート、事故リスクの軽減
- 医工連携事業化推進事業の採択…… 資金支援（2014、2017）
- 2019年より臨床試験を30件以上実施



医療現場のニーズ、当社の編込技術、帝人との連携により、世界で初めて、子どもの成長とともに伸張する「心臓パッチ」の開発に成功！

生体吸収性ポリマー系（PLLA系・ピンク）と非吸収性ポリマー系（水色）で生地を編み込み（⇒当社技術）、生体吸収素材の膜・ゼラチンと合わせることで、**子どもの成長とともに膜自体も伸張し、生体吸収性ポリマー系はやがて子どもの自己組織に置き換わっていく。**

【画像】帝人メディカルテクノロジー(株)HP



**2024.6
販売開始**